

英語、異文化学びたい

芦別高生 マレーシア留学へ抱負



荻原市長にマレーシア短期留学への抱負を語る芦別高の(左から)佐藤さん、水上さん、原さん

【芦別】来年1月6日～12日の日程でマレーシアに短期留学する芦別高の1、2年生3人が市役所を訪れ、荻原貢市長に抱負を述べた。

同校は市のまちづくり推進事業の補助金を活用し、希望する生徒を対象に海外短期留学派遣事業を行っている。新型コロナウイルス禍の影響で2019年

度、最後に休止していたが、23年度から再開している。短期留学するのは2年生の水上葵さん、1年生の佐藤聡太さんと原悠翔さん。期間中クアラ Lumpur 市内のホテルに宿泊し、語学学校で英語を学ぶほか、バトゥ洞窟や国立動物園などの観光名所を見学する。

3人は市役所を今月13日に訪問。荻原市長を前に、水上さんは「将来、英語を使って活躍できるように頑張りたい。日本との物価の違いに関心がある」、佐藤さんは「食文化についても学びたい」、原さんは「マレーバクなど現地の生き物に興味がある」などと意気込みを語った。荻原市長は「異文化に触れて国際的な視野を広げることが大切。たくさん学んで吸収を」とエールを送った。

(矢野透)